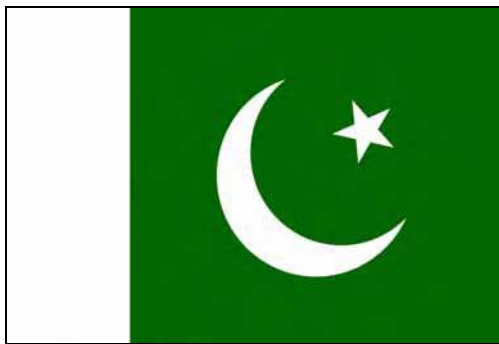


2007年11月

パキスタン・イスラム共和国



安全対策巡回指導実施結果報告書

在外・安全対策グループ
(関口)

総

CR-(5)

07-008

目次

日程表	1
パキスタン地図	2
パキスタン安全確認調査報告書（和田 T 長作成）	3
1 治安状況及び治安見直し	3
2 パキスタン事務所の安全管理について	4
3 要検討事項	4
第 1 パキスタン安全対策巡回指導調査	5
第 2 JICA 関係者の犯罪被害実態	10
第 3 JICA 関係者の住居等点検結果	11
1 点検実施数	11
2 評価基準	11
3 点検結果	12
4 総合評価	12
第 4 安全対策セミナーの開催	12
第 5 所見	13
別添 1 パキスタンの犯罪被害発生状況	14
別添 2 住居等点検結果	15
1 西野 裕香隊員宅	16
2 藤崎 晴美隊員宅	22
3 隊員 連絡所	30
末尾添付資料	
1 ラホールの犯罪統計（ラホール警察署提供）	
2 パキスタンの女性犯罪統計（内務省女性犯罪局提供）	

安全巡回指導調査団・関口アドバイザー行程

日にち	時間	場所	隊員名等	交通手段	備考
2007/10/21(日)	午後6:10	成田発			
2007/10/22(月)	午後	打ち合わせ			
2007/10/23(火)	6:15~	空港へ移動			川谷所員同行
イスラマバード	8:00~	ラホールへ移動	PK385	飛行機	
2007/10/23(火)	9:00~	市内へ移動		JICA公用車	
イスラマバード	10:00~11:30	警察	タホールセキュリティアドバイザー		
ラホール	11:30~12:00	移動		JICA公用車	
	12:00~13:00	嶋田隊員配属先周辺	嶋田美保(美容師)	徒歩	
	13:00~14:00	移動・昼食・移動		JICA公用車	
	14:00~15:00	西野隊員配属先周辺	西野裕香(保健師)		
		グラブデビナシラカアバード			
	15:00~15:30	移動		通勤機関使用	
	15:30~16:30	西野隊員宅住居及び周辺	西野裕香(保健師)		
	16:30~17:00	ホテルへ移動			
	17:00~18:30	休憩・資料作成			
	18:30~19:00	移動		公共機関使用	
	19:30~	夕食(フードストリート)	全ボランティア		
	21:30~	移動		公共機関使用	
2007/10/24(水)	9:00~	移動		JICA公用車	
ラホール	9:30~10:30	Daewooバス乗り場	タホールセキュリティアドバイザー		
	10:30~11:00	移動		JICA公用車	
	11:00~12:00	リパティブラザ			
	12:00~14:00	移動・昼食・移動		JICA公用車	
	14:00~15:30	セミナー	識字教育プロジェクトオフィス		
	16:00~	空港へ移動		JICA公用車	
	17:30~18:25	イスラマバードへ移動	PK622	飛行機	
	19:30~	会食	所長、次長、中矢所員、ほか。		
2007/10/25(木)	9:00~	JICA事務所			
イスラマバード	9:40~	移動		JICA公用車	
	10:00~11:00	警察	ナビ		
	11:00~12:00	移動(ドミービンディ)	ファルキ	公共機関使用	交通安全オリエンテーションルート
ラウルビンディ	12:00~13:00	モティバザール			
	13:00~14:30	昼食・移動(PIMSへ)		JICA公用車	
イスラマバード	14:30~15:30	移動(PIMS-藤崎隊員住居)	藤崎晴美(薬剤師)	通勤機関使用	
	15:30~16:30	藤崎隊員宅住居	藤崎晴美(薬剤師)		
	16:30~17:30	移動		JICA公用車	
	17:30~19:00	隊員連絡所	近江調整員・ファルキ	JICA公用車	
	19:10~20:10	ドミ裏マーケット			
	20:30~	夕食	ボランティア		
	21:30~	嫌がらせ、からかい被害現場視察	ボランティア		
2007/10/26(金)	9:00~	JICA事務所・移動		JICA公用車	
イスラマバード	9:30~10:30	ペシヤワールモール			
	10:30~11:00	移動		JICA公用車	
	11:00~11:45	内務省次官ピカール氏面談			昼食:事務所
	14:00~	セミナー	イスラマバードボランティア		
	22:00~	嫌がらせ、からかい被害現場視察	ボランティア、川谷、原所員、若井VC		
2007/10/27(土)	11:00~	事務所報告	所長、次長、中矢所員、川谷所員、若井VC	JICA公用車	
イスラマバード	17:00~	空港移動		JICA公用車	
2007/10/28(日)	16:45	成田着			

JICA パキスタン事務所関係者 配置図



2007年10月29日

安全対策 T 和田

今回の調査は、シンド州カラチ、バロチスタン州クエッタ、パンジャブ州イスラマバード、北西辺境州（NWFP）ペシャワール、アボダバード、マンセラ、バタグラムを駆け足で巡り、主に政府関係者からヒアリングを行ったもので、ドナーや NGO からのヒアリングは行っていない。そのため必ずしも包括的ではないが、結果を以下のとおり報告する。

なお、同時期に実施した関口安全対策アドバイザーによる安全巡回指導の結果については、別途関口アドバイザーより報告する。

1. 治安概況及び治安見通し

(1) 治安概況

各都市への訪問、滞在が極めて短かったため把握できたことは多くはないが、体感治安としては、日本での報道から受ける印象とは異なり、一般治安、テロリスクともそれほど極端に悪くはないという印象を受けた。赤いモスク事件後の一連のテロ以降、情勢は少し落ち着いているようである。

一般治安については、もちろん相応の注意は必要であるが、日本人や外国人が特にターゲットとなっているということではないようである。また、テロについては、ターゲットは政治的集会や宗教的集会、政府治安機関や司法施設、欧米関連施設などに概ね限定されており、不特定の一般市民がターゲットとなることは基本的にはないようである。ただし、最近のテロは、ターゲットは変わらないものの場所を選ばず実行される傾向が強まっているようであり、一般市民の巻き添えのリスクは高まっていると言えることから警戒は必要である。

(2) 治安見通し

短期的には、ムシャラフ大統領の大統領選立候補資格とブット元首相への恩赦の有効性を巡る最高裁の審理結果がムシャラフ大統領に不利な審理結果となった場合に、大統領が戒厳令などの強硬措置に出ることはありえ、野党側の抗議行動に発展する可能性がある。

また、来年1月の総選挙（下院選、地方議会選）に向けては、政党間や支持者間の衝突やそれに関連するテロのリスクは考えられるものの、一般治安が極度に悪化するようなことは想定しにくいと思われる。どれだけ公正な選挙が実施できるかという点が焦点と思われ、選挙結果発表後まで警戒が必要である。

加えて、NWFPのスイート地区などで展開されている政府軍によるテロリストグループの掃討作戦の進展によっては、引き続きその反動としてのテロがイスラマバードなど各地で起こる可能性がある。

政治情勢、治安情勢を見通すことは難しいが、国全体の治安が脅かされるような騒乱状態となることは想定しにくいと思われる。しかしながら、局地的な当局と野党などとの衝突やテロなどの潜在的リスクがあり、それが何かのきっかけで市民による抗議行動などに発展する可能性も否定できないと考えられることから、当面はやはり来年1月の下院選前後に向けて警戒を続けてい

く必要がある。外務省渡航情報、国連フェーズ（イスラマバードはフェーズ 2）も当面下院選後までは現行フェーズが継続される見込みである。

2. パキスタン事務所の安全管理について

上記 1. を踏まえ、以下の点をパキスタン事務所に提言した。

（1）総選挙に向けての対応

総選挙に向けて、及び総選挙後に想定される治安リスクのシナリオについては、日本大使館や UNDSS と意見交換する必要があるが、随伴家族などの一時退避による人員の最小化、新規渡航の一時見合わせなど、シナリオに応じた段階的な対応を検討しておくと共に、関係者の自宅待機については、10 日から 2 週間程度を想定し、事務所との連絡体制、備蓄などについて検討する必要がある。

（2）外務省渡航情報が「渡航是非検討」に下がった NWFP 一部地域への業務展開

ボランティアについては、今回訪問した限りではローカルタリバーンの影響も及んでおらず、アボダバード、マンセラ共にボランティア派遣が不可能ではないと思われるものの、パキスタン全体の政治治安情勢の潜在的不安定さに加え、日本国内におけるパキスタン治安情勢に対する認識を考えると、事業の性格上、やはり「渡航是非検討」となっている以上はボランティア派遣をすべきではないと考える。無償については基本的に実施可能と考えるが、例えば B/D 時など、事前に当該地域で活動する他ドナーや国際 NGO の治安情勢認識や安全対策などを調査し、参考とすべきである。（→以下 3.（1）参照）

（3）カラチについて

他都市と比べ一般治安情勢が悪いこともあり、ボランティア事業ではなく、技協、無償、円借に特化していくことも選択肢の一つと考える。なお、カラチのプロジェクトオフィスについては、早急なオフィスの安全対策強化が望まれると共に、事務所からの安全管理強化と関係者の安全対策意識の向上も必要と考える。

（4）他機関との連携

日本大使館、カラチ総領事館とは良好な関係を築いているが、これを引き続き維持すると共に、UNDSS との関係強化も望まれる。

（5）事務所の安全管理体制

安全対策専任の所員が配置され、また安全対策クラークも非常に優秀で、事務所安全対策担当所員との信頼関係も強く、事務所安全管理体制はしっかりと構築されている。ただ、安全管理担当所員の負荷がやや大きすぎるようにも感じられることから、今後は、事務所員全員の安全管理意識の更なる強化と、マネジメントの安全管理業務への更なる関与により、一層の体制強化が図られるものと期待する。

3. 要検討事項

（1）安全対策措置（渡航措置）の変更

外務省渡航情報が「渡航是非検討」に下がった NWFP 一部地域に関し、パキスタン事務所より業務渡航再開及び一般渡航の際の通過を可能としたい旨要望公電が発出されている。

業務渡航に関しては、具体的にはボランティアと無償が対象であるが、ボランティアについて

は前述2.(2)のとおり、特に日本国内におけるパキスタン治安情勢に関する認識に鑑み、やはり「渡航是非検討」となっている以上は実施すべきでないと考える。しかしながら、「渡航是非検討」地域への新規ボランティア派遣を原則見合せとすると、同様に「渡航是非検討」となっているイスラマバードやカラチについても、新規のボランティア派遣を見合わせる必要があるということになる。同様に見合せとするのか、そうでない場合にそのような対応の違いについてどのような合理的説明をするのか、整理が必要と考える。

また、一般渡航については、北部のギルギットなどの観光地へ行く際、現在はNWFPを一般渡航禁止としているため陸路によることができず空路によらざるを得ないが、空路は運行状況が不安定なことに加え料金的にボランティアには簡単に手が出ない状況である。パキスタン事務所としては、他の在留邦人が陸路NWFPを通過してそれら北部の観光地へ行っており問題が発生していないという状況、及び国内で一般渡航できる地域が非常に限られている現状に鑑み、パキスタン在住者が北部へ一般渡航する際にNWFPを陸路移動できるようにしたいという意向を持っている。パキスタン在勤者の精神的ストレスを考えると、例えば移動手段を信頼のおけるものに限定する、夜間の移動はしないなどの条件付きで陸路移動を認めるということがありうると思う。しかしながら、その場合にはボランティアの業務渡航は禁止であるにもかかわらず、同じボランティアが一般渡航で通過することはできるということになり、矛盾が生じないような整理が必要と考える。

(2) ボランティア事業要請開拓のガイドライン

現在総務部安全では、ボランティアの新規派遣は外務省渡航情報「十分注意」以下の地域とすべきということを基本的なガイドラインとして、青年海外協力隊事務局へも説明し理解を得ている。しかしながら、事務所の要請開拓の現場では、そのガイドラインが必ずしも明確に伝わっていないことから、「渡航是非検討」地域でも要請開拓がなされ、実際の要請が行われている。今回パキスタン事務所より、安全上の上記ガイドラインや、例えば生活条件や緊急時に事務所から駆けつけられる時間的範囲など、事務局が責任を持ってボランティア事業を実施していけるような、要請開拓に当たってのガイドラインの策定を青年海外協力隊事務局に求めたいとする強い要望があった。これについては青年海外協力隊事務局に伝えると共に、検討を促していきたいと考える。

(3) 関係者の精神的健康管理への配慮

パキスタンについては、物質的、生活インフラ的には例えばアフリカなどと比べれば良いと言えるが、テロなどの潜在的治安リスクに対する不安に加え、目に見えないイスラム圏特有の精神的ストレスがやはり感じられ、特にイスラマバードなどではそれを発散する場所や機会が非常に限られている状況であることから、安全管理に加え、関係者の精神的健康管理への配慮も必要と考える。

以上

第1 パキスタン安全対策巡回指導調査

- 1 調査実施日 10月21日～28日（7泊8日）
- 2 面会者：貝原所長、三角次長、川谷所員、中矢所員、若井VC、近江VC
タヘル安対クラーク、ファルキナショナルスタッフ、隊員16名
ラホール警察署副本部長、イスラマバード内務省女性次官との面談
- 3 調査内容：イスラマバード、ラホールの治安状況の確認（被害発生現場の実況見分）、警察署表敬治安情報の収集、関係者の住居点検、交通機関の確認（ワゴンバス、通勤バス、タクシー、リキシャ等の実車）

4 調査結果：

① ラホール（10月23日～24日）

○ ラホール警察署副本部長面談結果

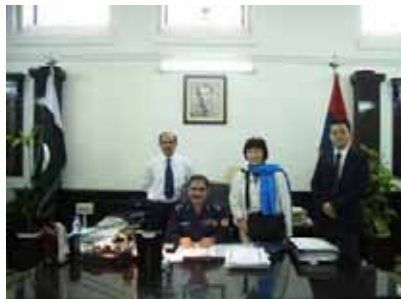
一般犯罪は、外国人という理由だけで特別狙われるということはなく、パキスタン人も被害にあっている。殺人、強盗、かつぱらい、すり等の路上犯罪が多く、殺人事件に関しては親族間の遺産相続争いによるものが多い。900万都市であり犯罪防止対策は難しい。

女性特有の被害に関しては、女性の一人歩きや人通りのない場所に行かないことが肝要である。からかいや嫌がらせをするのは殆どが若者集団で、大学や学校周辺にたむろしている。

ラホールの日本人留学生の事件は特異事案であり、この他特に外国人が狙われた事例はない。（ラホールの犯罪被害統計入手）



ラホール国際空港



ラホール警察署表敬



市内で目立つ抗議行動と制服警察官

- 嶋田隊員配属先周辺、西野隊員被害現場、フードストリート、Daew バス乗り場、リバティープラザ等の実査結果



【嶋田隊員配属先周辺】当日は偶々からかいや嫌がらせ等はなかったが、車輛、人通りも多く周囲は殆どが男性のみ、視野を広げ後方を振り返る等し、男達とは十分な間合いを取って擦れ違うことが肝要



【西野隊員被害現場（犯人役川谷職員）】 犯人逮捕現場の公園内

西野隊員通勤利用バス

可能な限りこの通勤経路は、人通りの少ない時間帯の利用は避け、遠回りでも人通りの多い場所を通り、視野を広げて男性との擦れ違いや、追い越す場合も十分な間合いを取ることが肝要。



【フードストリート】夜間でも賑わい食材も豊富、両サイドに店舗があり、中央のテーブルで食事ができる。「すり・置き引き」「セクハラ」被害懸念箇所。立ち入る際は、余分な荷物は持たず、貴重品は肌身離さず持ち、可能な限り男性隊員等と共に複数人で行動することが望まれる。



韓国資本 Daewoo バスターミナル

運転手は厳しくマナーを指導されている。 座席は全席指定



チケット売り場・窓口は男女別

待合室内

男女座席が別

【Daewoo バス乗り場】深夜時間帯の利用を避け、昼間時間帯の移動が望ましいが、やむを得ず到着が夜間になった場合は、乗客の内信頼できそうな家族連れ等に声をかけをし、バスターミナル前で客待ち中のタクシーやリキシャ乗り場まで同行してもらう。また、バス内では貴重品は肌身離さず、サービスエリア等での休憩時間の際は、座席や荷棚に荷物は残さず持ち歩くことが肝要であり、やむなく置

いて降りる場合は、持ち去られないようにチェーンロック等で繋ぎとめ、携帯アラームを有効活用する。



アナルカルマーケット



リバティープラザ



2006年ゴミ箱が爆破された現場

【マーケット周囲】テロが発生しやすい場所では、人の動向に注意を払い、駐車車輛や集団には近付かない、集団化した場合は素早くその場を立ち去り、ガラス窓の少ない安全な場所に退避するよう努める。

② イスラマバード (10月22日、10月24日～27日)

【JICA パキスタン事務所】



JICA パキスタン事務所入居ビル



ビル1階の警備状況



2階事務所入り口の警備状況



階段途中の監視カメラ



3階執務室前受付



執務室入口：防弾ガラス使用



執務室内のモニターテレビ



所長室



執務室内

○ イスラマバード内務省女性次官との面談結果（女性犯罪捜査課トップ）

現在女性の社会進出が目立ち、省庁で10%増加しており、議会においても女性の進出が目覚ましい。PKOにも女性が派遣されている。しかし、依然女性の地位が低いことが、セクハラ被害等の背景になっていることは否めない。

70年代、パキスタンでは女性の性的被害に対する規制が厳しく、被害にあった女性自身が訴える場合、立証責任は被害者である女性に課せられ、4人の男性の証言が必要であった。最近では改正され、被害者保護の観点で対応し始めており、女性自身の申し立てのみで立件されるため、多くの女性が訴えてきている。

セクハラ被害遭遇を避けるためには、親しげに笑いかける行為は誤解を招き、間違った感覚を持っている外国人はターゲットになりやすいためこれらを避け、また、パキスタン人の女性は2~3人でマーケットに行ったり、夜遅くに歩くことはしないので、午後9時以降の外出は控えるべきである。

（関係者がセクハラ被害や嫌がらせ、からかいに遭っていることを伝え、女性関係者に対する被害防止のための講義を実施してもらえないかの依頼に対し、【JICAは非常に好きな組織であるので、喜んで講師を引き受けさせてもらう】との回答を得られ、生の声が届く関係が構築できた。女性犯罪被害統計入手）

○ 高速バスターミナル、ショッピングセンター、夜間の隊員連絡所周辺、隊員被害現場等調査結果



乗り合いバス、隊員等が良く利用



すり被害多発のスズキ



リキシャ

乗り合いバスは男女の座席が区別されるため、女性は前部助手席側に乗るよう指示される。運転手隣は、「運転手が意図的に車を操作する素振りや膝や足を触る」とのことであるため、女性は1台見送るなどし、極力その位置に乗り乗することは避ける。スズキ乗車時は女性の集団すりが多いことから、貴重品はしっかり抱えたり、服の下に入れて防御する。



ラワルピンディーの市場



女性隊員等が良く立ち寄る店舗等



路上駐輪バイクを移動



ペシャワールモール



野菜や果物は新鮮で品数豊富



生活用品も品数豊富



高速バスチケット売り場
赤丸内男性隊員すり被害現場



高速バスターミナル



連絡所近くのアイスクリーム屋
夜間若者達が屯し、声掛される。



【暴動・立て籠もり、自爆テロ等発生現場等】

神学生立て籠もり事件現場
レッドモスク



取り壊された神学校の跡地



レッドモスク近くの日曜市場



アッパラマーケット周辺
爆破の痕跡が建物に残っている



マリオットホテル
爆破物探査犬も配置し厳重な警戒態勢



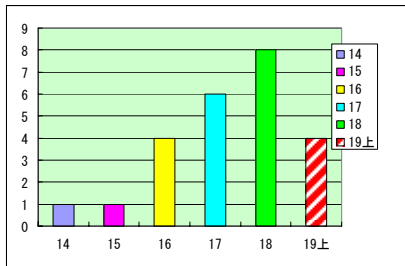
軍隊所属の爆破物探査犬

第2 JICA関係者の犯罪被害実態

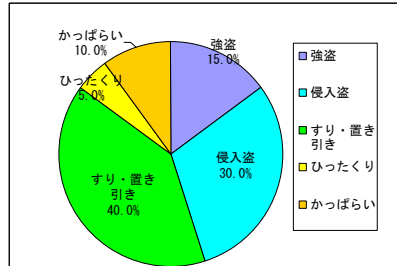
1 パキスタンにおける犯罪被害実態

パキスタンのJICA関係者犯罪被害発生状況（表は平成14年度～18年度）

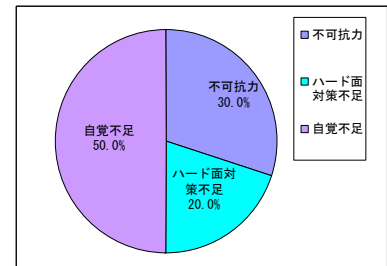
- 16年度から被害が増加傾向を示し、昨18年度は過去最高の8件の被害が発生した。



年度別被害発生件数



罪種別被害割合



被害要因別割合

(1) 被害遭遇率・・・18年度アジア地域では第4位（滞在者20人以上）

被害遭遇率はJICA全体でもアジア地域でも高い割合を示した。

18年度：パキスタン・・・8.3人に1人（但しJOCV3.6人に1人）

アジア全体・・・18.5人に1人（JOCV7.7人に1人）

JICA全体・・・9.4人に1人（JOCV6.3人に1人）

(2) 罪種別特徴（14年度～19年度上半期まで含む）

【強盗】3件・・・（屋内2、カージャック1）3～5人組の集団犯行
全てけん銃、ライフル等の凶器使用

【ひったくり】1件・・・歩行中を狙った2人乗りのバイクによる犯行、今後増加が懸念される

【職場での盗難】4件・・・配属先において貴重品を置いたまま活動中

【すり】8件・・・市場内2件 バス・タクシー内5件 その他1件
被害品・・・財布6件 携帯電話 1件（1件は未遂）
被害品収納箇所・カバン・バック6件 不明2件

【侵入盗】6件・・・全て空き巣
合鍵使用4件 無施錠1件 鍵壊し1件

(3) 被害の要因

- 住居の防犯対策の不備（ソフト面も含め）
- 物の管理の不適切・・・特に配属先で
- 視野狭窄によりできる死角。安全確認の不足

第3 JICA関係者の住居等点検結果

1 点検実施数

3箇所（隊員連絡所、隊員住居2箇所、）

2 評価基準

- A・・・現在のままで問題ない。
- B・・・若干の改善を加えれば、現在のままで良い。
- C・・・相当の問題あり、可能であれば転居も考えた方が良い。
- D・・・改善不能の問題あり、転居することが望ましい。

3 点検結果

- Aに近いB・・・1箇所（西野隊員住居）
- B・・・2箇所（隊員連絡所、藤崎隊員住居）

4 総合評価

藤崎隊員住居の問題以外は、概ね安全な地域に選定されており、寝室や玄関扉等の鍵の強化が一部必要で、隊員連絡所は、外部出入口 5 箇所に関戸付きの鉄格子扉の設置が必要である。

第4 安全対策セミナーの開催

○ ラホール

実施日時：10月24日（14：15～16：15）

参加者：所員、VC、隊員5名

場所：識字教育プロジェクトオフィス

実施内容：

治安状況の視察、被害現場等の実査、住居点検結果に基づき、

「パキスタンにおける安全対策上の問題点と具体的対策」

「テロに巻き込まれないための対策」

「女性の被害防止対策ケーススタディー」



日常女性が受ける不快な行為等について他国の事例等を紹介し、対応策について話し合いを実施。



男性隊員も交えたケーススタディーを実施

○ イスラマバード

実施日時：10月26日（14：00～15：30）

参加者：所員、VC 2名、隊員11名

場所：JICA 事務所 2階会議室

実施内容：

治安状況の視察、被害現場等の実査、住居点検結果に基づき、

「パキスタンにおける安全対策上の問題点と具体的対策」

「テロに巻き込まれないための対策」

「女性の被害防止対策ケーススタディー」



公共交通機関乗車時の注意事項や、セクハラ発生場所における留意点について指導。



男性2名を交えケーススタディーを実施、積極的に問題点の指摘や、防止策について話し合われた。

第5 所見

高速バス待合所、チケットカウンターでは、リュックは前にかかえる等貴重品の携行方法に留意すれば特に問題はなく、バス到着時刻が遅くなった場合は、バスターミナル前にタクシーやリキシャ等が客待ちしているため、これら信用できる一台を貸切り、自宅玄関前まで乗り付けることでリスクは軽減されるものと思料される。

単独や少人数での不要不急の外出は避けるべきであるが、日没後の会食等の外出時は、男性を交えた数人のグループで行動することが望まれ、帰宅時は信用できるタクシーを借り上げる等し、男性が責任を持って女性を送った後に自身の安全も十分確認した上、帰宅することが望まれる。

夜間や深夜時間帯は男性といえども不要不急の外出は避け、やむを得ず遅くなった場合は徒歩での帰宅はせず、タクシー等を借り上げるなどして安全な帰宅手段をとる。

女性隊員は全員外出時や活動時は民族衣装を着ており、頭部にはドゥパッタといわれる大判のスカーフを被り、目だけを出しているため、視野が狭まり死角になる部分が多い。したがって近くに寄ってくる不審車輛や痴漢等を事前察知し、避けることが困難なため、外出先の人通りの少ない場所や、過去の被害発生場所や類似箇所に来る場合は、視野が広がり死角が出来ないようにドゥパッタを被り直す等の配慮が被害減少に繋がるものと思料される。

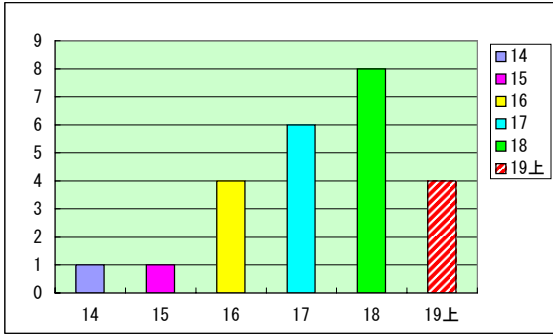
また、関係者がどのような状況下で被害に遭うのかを安全担当者のみでなく、事務所員が知るべきであると思料されることから、関係者が日常使用している公共交通機関のミニバス等に実車し、混雑状況等を把握するべきと考える。

別添1

パキスタン国の犯罪被害実態と対策
(平成14年度～平成18年度)

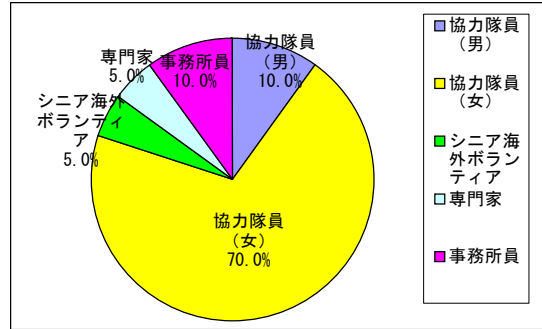
1. パキスタン国被害発生状況

(1) 年度別被害発生件数



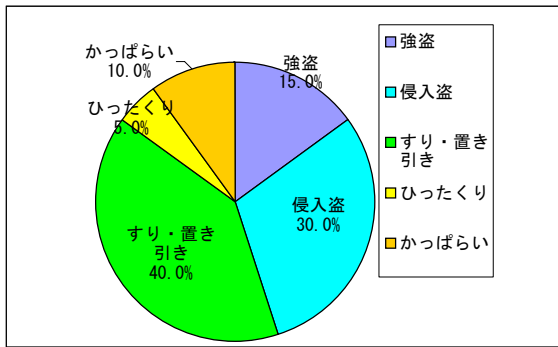
年度	14	15	16	17	18	19上
件数	1	1	4	6	8	4

(2) 派遣形態別被害割合



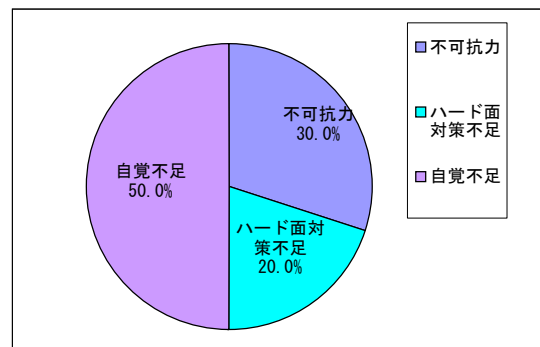
形態	協力隊員(男)	協力隊員(女)	シニア海外ボランティア	専門家	事務所員	合計
人数	2	14	1	1	2	20
%	10.0%	70.0%	5.0%	5.0%	10.0%	100%

(3) 罪種別割合



強盗	侵入盗	すり・置き引き	ひったくり	かつばらい	合計
3	6	8	1	2	20
15.0%	30.0%	40.0%	5.0%	10.0%	100%

(4) 被害要因



不可抗力	ハード面対策不足	自覚不足	合計
6	4	10	20
30.0%	20.0%	50.0%	100%

2 パキスタン国の犯罪被害の特徴と傾向

- 当国の犯罪被害発生数は、例年少なかったものが、16年度から増加傾向を示し、17年度には6件発生し、滞在者当りの被害確率は、過去最高の13.0人に1人の割合で、JICA全体の9.7人に1人と人比べると低い確率ではあるが、アジア全体の18.5人に1人の割合と比較すると高い割合となった。昨18年度は、17年度をさらに上回り8件発生し被害遭遇率は8.3人に1人と、初めてJICA全体の9.4人に1人を上回り、アジア地域の滞在者20人以上の派遣国中では第4位に位置した。
- 派遣形態別で見ると、女性隊員の被害が70%を占め、17年度まで発生が無かったシニア海外ボランティアの被害が昨18年度に発生した。
- 罪種別で見ると、
 - 「すり・置き引き被害」が最も多く、バスや乗り物乗車中での発生が殆どで、他には、市場やチケット売り場前で発生している。混雑している場所では、バック等の持ち物の携行方法に留意し、「出入り口付近に乗車しない」、「親しげに話しかけて近付いてくる者、数回ぶつかってくる者」に警戒をし、バスに乗車する際は予め小銭を用意し財布等はその場で出さない。
また、財布や携帯電話、貴重品は取り取りやすいズボンの尻ポケットや、リュックやバックの外ポケットに入れず、貴重品は肌身離さず携行する等の被害に遭わないための配慮が必要である。
当国での発生は少ないが、財布の次に狙われる携帯電話は、丈夫な紐や鎖を付けて外から見えないように配慮して、「首から下げ服の内側に入れる」「ベルトにしっかり結束する」等盗まれないための対策を講じる事が肝要である。毎年度のすり被害の90%は、ちょっとした注意をしていけば防止できた被害である。
 - 「空き巣被害」は、1件を除き玄関からの侵入であり「鍵を壊して強引に侵入」、「合鍵を使用し」または、鍵の開まらない窓からの侵入であるため、「入居前の住居防犯の徹底、外部出入り口扉の錠前の交換や、ソフト面では、警備員に鍵の管理を任せない、貴重品等は寝室内の鍵の掛かる場所に保管する」等の被害に遭わないための配慮も必要である。
 - 「かつばらい被害」は配属先で発生していることから、携帯電話を含む貴重品等は、肌身離さず所持する、施錠できる機の引き出し、ロッカー等に保管する習慣を身につけ、盗まれないよう配慮する。
 - 「強盗被害」は12年度以降発生がなかったものが、16年度「屋内」と昨18年度に「カージャック」「押し込み」被害が発生しており、何れも銃器を所持した3～5人組による犯行であるため、遭遇時の無抵抗主義の徹底と危険地帯の立ち入りの自粛等指導徹底されることが望まれる。
- 被害要因では、不可抗力が30.0%であるとは言え、自覚不足が50.0%を示しているため、単独、少人数で行動する際は後方を振り返る等の警戒を怠らず、女性隊員は死角が出来ないように被り物を調整することが肝要である。さらに、住居の防備を強化し、関係者の安全に対する意識の高揚を図ることによって、今後被害の増加は抑止できるものと思料される。

住居等点検結果

1 西野 裕香隊員宅

【実施日時】 2007. 10. 23 午後 3 時 20 分頃～同 4 時 20 分

【所在地】 ラホール市モデルタウン A137/II

【予想されるリスク】 押し込み強盗、侵入盗、路上強盗、ひったくり、性的被害、
バス乗車時のすり、からかい・嫌がらせ等

【評価】

◎ 評価・・・Aに近いB

【住居の概要】

- ① 西野隊員住居は、ラホール市の高級住宅街モデルタウン A 地区にあり、A 地区の入り口にはゲートが何箇所か設けられて、夜間は警備員が地域に出入りする車等をチェックしており、住居周囲の巡回警備も行っている。
- ② 敷地の両側にはパキスタン人の家族が居住しており、左側住居とは一部壁で接し、敷地の周囲を高さ約 2m～2.8m のブロック塀で囲み、正面左側には外側両開きの高さ約 2.2m の鉄製の通用門があり、内側に門錠と南京錠が 2ヶ所取り付けられ、右側の扉には更に人用の通用門を取り付けている。
- ③ 家屋はブロック造り 2 階建ての独立家屋で、1 階には婦人が私立小中学校の教師をしている大家の 5 人家族が居住しており、隊員は 2 階全部を借りている。住居の裏側には使用人家族が住んでいる使用人部屋がある。
- ④ 建物の左側に住居に通じる階段があり、2 階廊下との仕切りに外側両開きの鉄格子の通用門があり、扉の上部に南京錠用フック付き門錠が取り付けられているが、南京錠は取り付けしていない。
- ⑤ 通用門を入ると屋上部分が隣家と接しているためか廊下左側の壁上部と、突き当たりの屋上への階段口、廊下の庇には鉄格子が取り付けられ、屋上階段入り口には鉄格子の扉があり屋上へと続いている。扉には南京錠用フック付き門錠を取り付けているが、南京錠の取り付けはない。
- ⑥ 住居の玄関は、外側片開きの木製の格子の網戸と、内側片開きの 1 枚板の頑丈な板扉の 2 重扉になっており、網戸の扉には外側に南京錠を取り付け、扉の内側には差し込み錠を取り付けている。内側の板扉の裏側中央にサムターン式シリンダー錠を取り付け、ドアスコープ、差込錠の内鍵を取り付けている。
- ⑦ 玄関扉の左隣に玄関扉と同じ造りの 2 重扉があり、リビングの出入り口扉になっているが通常は締め切っており使用していない。扉の錠前と左隣の窓の距離は約 60cm しか離れていない。
- ⑧ 玄関扉を入ると右側が広い玄関ホールで、室内に 1 箇所ある引き戸式のガラス窓にはクレセント錠を取り付け、内側に鉄格子を取り付けている。窓の内側には厚地のカーテンの取り付けもされている。

- ⑨ 玄関扉の左側に4枚の折り戸式板枠のガラスの仕切り扉があり、リビングの入り口扉になっている。扉の上下に差し込み錠を取り付けているが、床の穴の深さが約2cmしかない。扉の上部には採光用のガラスが嵌め込まれている。
- ⑩ リビングの左側には廊下への入り口扉があり、扉横のガラス窓にはクレセント錠で施錠をして、内側に鉄格子を取り付けている。居間の突き当りがキッチンになっており、リビング同様のガラスの窓がある。
- ⑪ リビングの向かい側が廊下になり、廊下の左手奥に1階に通じる扉があるが隊員住居側から円錠とシリンダー錠で施錠しており、1階から開ける事は出来ない。
- ⑫ 廊下の右側とその隣にゲストルームが2室あり、それぞれの入り口扉は合板扉で、扉の中央にドアノブと一体の本締め付き円筒錠を取り付け、内鍵として扉の上部に差し込み錠を取り付けている。室内のそれぞれの引き戸式ガラス窓には、クレセント錠を取り付け内側に鉄格子を取り付けている。室内備え付けのバス・トイレ室の扉にはドアノブ一体の本締め付き円筒錠を取り付けており、ガラスの引き違い窓にはクレセント錠を取り付け、内側に鉄格子を取り付けている。
- ⑬ ゲストルームの左横に主寝室がある。入り口の扉は各室同様合板扉で、扉の中央にドアノブと一体の本締め付き円筒錠と、扉の上部に内鍵として差込錠を取り付けているが、扉の下部には取り付けがない。室内に1箇所ある引き戸のガラス窓は、クレセント錠を取り付け、他の部屋同様内側に鉄格子を取り付けさらに内側に厚地のカーテンを取り付けている。室内備え付けのバス・トイレ室は他ゲストルームと同様である。
- ⑭ 西野隊員は、本年9月1日午前8時40分頃バス停近くの公園出口周辺で、男を追い越した際にセクハラ被害を受けている。その際騒ぎに気付いた公園で運動中の人々が犯人を取り押さえ、臨場した警察官によって犯人は逮捕されている。

【問題点と改善策】

- ① 玄関扉横のリビング出入り口扉に取り付けてある鍵は、摘みで回すサムターン式シリンダー錠のため、窓を割り手を入れれば簡単に鍵を開ける事が出来るため、扉に接している片側の窓を重い家具で塞ぐか、両面シリンダー錠を追加設置し、扉下の差込錠の受け金具が外れかかっているため、修理固定し強度を高める。
- ② 寝室の扉の錠前は本締め付きとはいえ、円筒錠のため力を加えれば壊すことが出来るため、サムターン式シリンダー錠を追加設置し、扉下に差込錠の内鍵を取り付ける。
- ③ 玄関扉の下に差込錠を内鍵として取り付ける。

【住居等の写真】



セクハラ被害発生現場
犯人役は川谷職員



モデルタウンA地区のゲート
夜間は警備員がおり、地域を巡回もしている



隊員住居通用門前
隣家と繋がっており、屋上から屋根に侵入可能



通用門内側
南京錠で施錠している



家屋全景
1階に大家家族が居住 2階は隊員住居



右隣家側通路
塀が低いため簡単に乗り越えることが出来、
梯子を使えば2階の窓にアクセス可能



右隣家側



2階への外階段



隊員住居前

手前に通用門、左側が隣家の壁、屋根部分にも鉄格子を取り付け侵入防止している。



屋上に通じる階段

住居チェック時は扉の施錠なし、屋根伝いに侵入し隊員住居前まで侵入可能。



隊員玄関扉
外側の扉は金網



広い玄関ホール



リビングとキッチン入口



扉の錠前と窓の距離は約 60cm しか離れていない。



右側に 3 ベッドルームがある広い住居



ゲストルームの扉の内側
他のベッドルームと同様



ゲストルームの窓
内側に鉄格子を取り付けている。
他の部屋も同様



室内備え付けのバス・トイレ室
高窓にも鉄格子を取り付けている
他の部屋も同様



主寝室入口

左側の扉は大家宅に通じているが、大家宅側からは入ることが出来ない。



寝室扉の内側

本締め付き円筒錠（他ゲストルームも同様）



室内のベッドの位置

窓には鉄格子を取り付けている



室内の様子

奥がバス・トイレ室の入口



バス・トイレ室



バス・トイレ室の鉄格子入り高窓

2 藤崎 晴美隊員宅

【実施日時】2007.10.25 15:54~16:55

【所在地】イスラマバード市 F10/3 61st79H

【予想されるリスク】押し込み強盗、侵入盗、屋外強盗、ひったくり、性的被害、バス乗車時のすり等

【評価】

◎ 評価・・・B

【住居の概要】

- ① 隊員住居は、首都イスラマバード市 F 地区の高級住宅街に位置する、ブロック造り地下1階地上2階建ての独立家屋で、2階フロアをエジプト人が間借りし、1階には大家家族が居住しており、隊員は地下フロアを間借りしている。
- ② 大家主人は50歳くらいのビジネスマンで、ドバイでレストランと建築会社を営み、ドバイとパキスタンの滞在は半々位の割合である。大家の家族は40歳代の大家婦人と5人の息子と4人の娘がおり、隊員入居時息子等は全員ドバイ等に留学していて不在だったものが、隊員入居後に20代の次男が戻ってきてそのまま住んでおり、藤崎隊員に対し非常に興味を示していたようである。
- ③ 敷地周囲を高さ約1.8mのブロック塀で囲み、住居の正面側に鉄格子付きプラスチックの通用門を2箇所設け、正面左側の両開き通用門は大家専用、右側の大型両側内開きの扉はエジプト人専用、隊員用通用門はエジプト人通用門の左隣の片開きの通用門で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。
- ④ 通用門を入ると塀に沿って通路があり、左側の大家敷地とをプラスチックの仕切り板で仕切り、隊員らの通用口側に出入りできる内側片開きの扉を設けており、大家側から施錠され、隊員側からは出入りが出来ない。
- ⑤ 通路奥左側に2箇所扉があり、左側の両開きの扉はエジプト人専用、右側が隊員専用の扉になっている。隊員専用扉は内側片開きの1枚板の扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付け、扉の上部には内鍵として差し込み錠を取り付けている。扉の上部のガラスの高窓には、内側に鉄格子を取り付けている。
- ⑥ 扉を入ると階段があり、数段上った位置に大家住居の出入口扉があり、隊員住居は大家出入口前を通り更に階段を下りた地下に位置している。隊員住居の玄関扉は、外側片開きの1枚板の扉で、ドアスコープと扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けているが、内鍵の取り付けはない。
- ⑦ 玄関を入ると玄関の右側にゲストルームがあり、入口扉は内側片開きの1枚板の頑丈な扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。室内にバス・トイレ室が備え付けてあり、扉の錠前は円筒錠を取り付けているが、扉は湿気のためか閉まらない。

- ⑧ バス・トイレ室の奥に大家居室に通じる扉があるため、隊員入居時に大家側から板を打ち付け塞いである。ゲストルーム室内とバス・トイレ室内の高窓には内側に鉄格子と縦型布ブラインドを取り付けている。
- ⑨ 玄関の正面がキッチンになっており、入口扉は1枚板の頑丈な扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。キッチンの1箇所の高窓には内側に鉄格子と縦型布ブラインドを取り付けている。
- ⑩ 玄関左側は左から順番に食堂とリビング、リビングの右隣に主寝室、主寝室隣、リビングの正面が応接間になっており、それぞれの室内の全ての高窓には内側から鉄格子と縦型布製ブラインドを取り付けている。
- ⑪ 食堂とリビングの出入口扉は、内側両開きの上部にガラスが嵌った木枠付きの扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付け、内鍵として扉の上部のみに差込錠を取り付けている。
- ⑫ 主寝室の扉は頑丈な内側片開きの1枚板扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けているが、内鍵の取り付けはない。寝室内にはバス・トイレ室があり、扉にはサムターン式シリンダー錠を取り付けており、1箇所ある高窓には内側から鉄格子と縦型の布製ブラインドを取り付けている。
- ⑬ 住居は地下にあるためか、湿気によって壁が剥がれそうになっている部分が目立つ。

【問題点】

- ① 隊員が間借りしている住居周囲は高級住宅街ではあるが空き地もあり、若者等が屯しやすい場所もあり、また、住居近くの路地は人と擦れ違う際は間合いが取れないほどの幅員しかなく、強盗、ひったくり、セクハラ目的で付けてくる男や、正面から来る不審者の存在に気が付いても逃げ場がない。
- ② 大家の次男は隊員に執拗なほど興味を示し、本年3月か4月頃隊員が留守中に大家宅においてあるスペアキーを使って、隊員に無断で室内に入り込んだことがあった。次男は当初は否認していたが、隊員の追及によって漸く自白し、その際息子は頑強に否認しているが、日本から持っていった携帯電話がなくなっている。
- ③ 建物の隊員専用口扉を入ると、自宅玄関扉に到るまでの間に大家宅の通用口扉があり、その間は完全に密室状態となる。また、ゲストルームのバス・トイレ室に通じる大家宅の扉は、大家宅側から板で完全に塞がれて、次男の行動は大家家族が厳重に監視して、前記のような行動は取らせないと誓約したとはいえ、家族全員が外泊、外出時息子だけが残った場合を想定すると不安が残る。
- ④ 玄関扉、寝室扉とも内鍵の取り付けはない。
- ⑤ 地下室という環境から、室内の壁等に湿気よる傷みが目立ち、コンセントにプラグを差したままであるため火災が心配される。

【現段階での改善点】

次男の侵入事件があった際、転居も視野に入れ住居を探したものの、現住居に見合う物件は見当たらず、隊員の希望でリスクを承知で引き続き居住することを選択したとの事。その際大家に対し事務所から再び同様の事が起こらないように厳しく申し入れをし、息子の監督を誓約させ、隊員の目の前で寝室の錠前を交換させて、全ての鍵を渡してもらっている。

その後次男は家族に監視されているからか、不審な行動もなく現在に到っており、また、隊員の任期が来年3月までであることから、本来であれば転居が望ましいところ、任期終了まで以下の対応をして防備を強化するが、自身の住居の弱点はどこであるか何処で何に留意するべきかを考えながら行動することが望まれる。

しかし、再度次男が事の軽重に関わらず不審な行動に出た場合は、即隊員連絡所に転居させる等の措置をとるべきである。

- ① ゲストルームの扉は常に施錠もせず開けているため、特に在室時は扉にしっかり閉めて施錠し、万一大家の息子が侵入を試みても入り込むことが出来ないようにしておく。
- ② 玄関扉の内側に内鍵を2箇所と、ドアチェーンを取り付ける。
- ③ 寝室の扉の内側に内鍵を2箇所取り付ける。
- ④ 寝室や湿気で壁等が傷んでいるため、火災防止の観点から結露や湿気の少ない部屋になるよう換気をし、可能な限り寝室等の痛みの激しい部屋のコンセントは使用せず、他の部屋であってもコンセントからこまめに電気製品のプラグを抜く。

【住居等の写真】



藤野隊員の自宅近くの通勤経路



車道を避けて通行

通行中の車内からの嫌がらせ、からかい、痴漢防止のため、常に車道より一段高くなっている未舗装路を利用。



住居近くの近道の路地

男に付きまといわれた現場、携帯電話を利用し撃退した。



路地奥

逃げ場もなく夜間は照明もない。



住居前の通り

路地を通らなくても矢印方向から迂回可能



高級住宅街

住居前に若者がたむろしやすい空き地がある。



隊員住居前で屯する若者

隊員を単独で歩かせると、若者達はからかい始め、ファルキナショナルスタッフによると、「娼婦か」と言う言動もあったとのこと。



猛然と抗議するファルキスタッフと若井調整員



藤野隊員とエジプト人側通用門



大家側通用門



隊員専用通用門
両面シリンダー錠付き



大家宅庭との仕切り
扉に施錠をしており大家側からしか開けない



隊員住居の窓
四角部分が地下の窓



隊員専用入口



専用扉裏側

上部には鉄格子の取り付けがある

大家家族も出入りが可能

◎専用口から自玄関前までは外部から遮断され密室状態



大家宅出入口扉

隊員はこの扉前を通り自宅玄関へ至る



自宅に通じる階段（1階から地下）



自宅玄関前



玄関扉内側

左側の部屋は大家宅に通じているゲストルーム



ゲストルームの扉

通常開けっ放しにしている



ゲストルームのバス・トイレ室内
扉は大家宅に通じているが、板を打ち付け塞いでいる。



バス・トイレ室の扉の錠前は円筒錠
扉は湿気のためか閉まらない。



ゲストルームの窓
住居の全てのガラス窓には鉄格子を取り付けている。



キッチン



キッチン横の応接間



左側扉リビングとダイニングルーム
右側主寝室



リビング及びダイニング扉の内側



リビングルーム

大家の次男が侵入した際に、絨毯に足跡が残っていた。



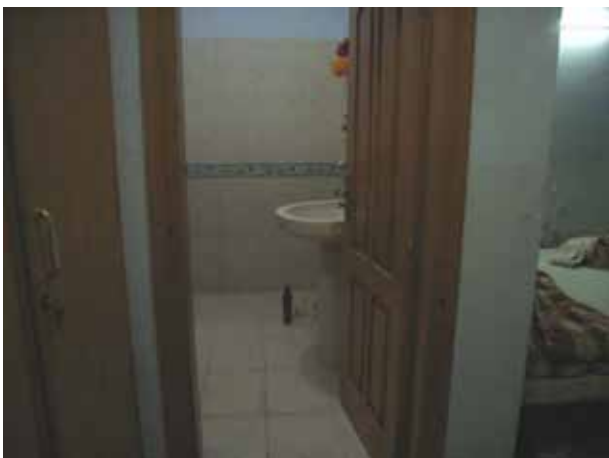
主寝室扉の内側

両面シリンダー錠は付いているが、内鍵は取り付けてない。湿気で壁が剥がれている部分が目立ち、火災が心配される。



主寝室高窓

窓には鉄格子を取り付けている。



主寝室のバス・トイレ室

扉にはサムターン式の錠前



バス・トイレ室の高窓

換気扇とガラス窓には鉄格子を取り付けている。

3 パキスタン隊員連絡所

【実施日時】2007.10.25 17:50~18:50

【所在地】イスラマバード市 F7/1 st34 H03

【予想されるリスク】侵入強・窃盗、連絡所周囲での屋外強盗、ひったくり、性的犯罪、嫌がらせ等

【評価】

◎ 評価・・・B

【連絡所の概要】

- ① 隊員連絡所は、イスラマバード市 F 地区の高級住宅街に位置しているブロック造り 2 階建ての建物で、右隣は NGO の事務所、左隣はパキスタン人の家族が居住している。
- ② 連絡所周囲の殆どの住居前には警備員が配備されており、連絡所でも通用門に向かって左側に警備員の詰め所を設け、24 時間昼夜 2 交代制で警備員を配備している。
- ③ 隊員連絡所敷地周囲は、正面が上部に約 0.5m の鉄柵を取り付けた高さ約 1.8 m のブロック塀、右側面は高さ約 1.8m のブロック塀、裏側は裏の通りから塀を乗り越えての侵入防止のため、高さ約 1.5m のブロックの上に鉄板で嵩上げた塀、左側面は上部が透かし状になっている高さ約 1.5m のブロック塀で囲んでいる。
- ④ 建物向かって正面右側に、内側両開きの高さ約 1.8m の鉄柵の通用門を設け、更に左側の扉には人用の内側片開きの通用門を設け、片扉の内側に両面シリンダー錠と南京錠を取り付け、両開きの扉は中央に南京錠を取り付けている。
- ⑤ 通用門を入ると塀と建物の間が通路になっており、通路の突き当たりの車庫を警備員の休憩所としており、建物の左奥に使用人部屋とトイレ・シャワー室があり、警備員と管理人は連絡所内のトイレ等を使うことはない。
- ⑥ 連絡所の玄関は、外側両開きの上部に網戸を取り付けた板格子の扉と、内側片開きの 1 枚板の頑丈な扉の 2 重扉を取り付けており、玄関の右側には採光用のガラスの窓があり、内側から鉄格子を取り付けている。
- ⑦ 玄関扉の外側の網戸には両扉の上部に門錠を取り付け、内側の板扉には両面シリンダー錠とテンキー式錠を取り付けている。テンキー式錠の室内側はサムターン式になっている。
- ⑧ 玄関を入ると正面にロビーがあり、ロビー右側に 2 階へ通じる階段がある。階段横のロビー右手が女性用寝室になっており、正面右側にキッチン、キッチンの左側にダイニングルーム兼リビングルーム、リビングルームの奥にゲストルームがある。

- ⑨ 全室の入口の扉は内開きの合板扉で、女性用寝室扉には両面シリンダー錠と、扉の内側上部に差し込み錠を取り付けており、女性用寝室も含め、全室の内側両開きと片開きのガラス窓は、扉の内側上下に差込錠を取り付けており、窓に鉄格子を取り付けている。女性用寝室とゲストルームにはバス・トイレ室があり、これらの高窓には内側に門錠と鉄格子を取り付けている。
- ⑩ 台所の奥には建物左横の通路に通じる裏口扉があり、内側に片側内開きの合板扉と、外側に網戸を取り付け、それぞれの扉には門錠を取り付けているが、外部に面している扉にも拘らず、鉄格子の取り付けはない。
- ⑪ リビングルームの奥に外部出入口扉があり、片側内開きの合板扉と外側には外側両開きの網戸を取り付けている。合板扉の中央に両面シリンダー錠と差込錠を取り付けているが、鉄格子扉の取り付けはされていない。リビングルームの隣のゲストルームには現在短期隊員が居住している。
- ⑫ 1階から2階に至る階段上部の窓には内側から鉄格子を取り付けている。2階に上がるとフリースペースがあり図書室になっており、図書室右側が女性用の寝室、階段正面に男性用の寝室があり、各室の入り口扉は合板扉で、両面シリンダー錠と上部に差込錠を取り付けている。
- ⑬ 各室備え付けのそれぞれのバス・トイレ室の高窓にも鉄格子を取り付けているが、女性用の高窓のカーテンは薄く、またレールから外れており、洗濯ピンで止めてある。
- ⑭ 女性用寝室には、ベランダ出入口扉があるが、鉄格子扉の取り付けはなく、同様に図書室両サイドにも、非常口の表示がされている合板扉がある。各扉は片側内開きで、両面シリンダー錠と門錠の内鍵を取り付け、外側に網戸を取り付けているが、鉄格子扉は取り付けしていない。

【問題点と改善策】

- ① 隊員連絡所の存在は近隣住民、商店主等は周知しているものの、若い独身と思われる不特定多数の男女が出入りする、不健全な施設と勘違いしている者もあり、時折嫌がらせやセクハラ行為を受けるとのことであるため、日本人のボランティアの健全な施設であることを周知させ、少しでも軽減できるのであれば、パキスタンの国旗、日本の国旗、JICA ロゴを入れたプレートの表示を検討する。ただし、表示することによってテロの標的となるリスクが高いようであれば、表示は見合わせる。
- ② 隊員連絡所の昼間の警備員は、真面目で勤務態度も良く隊員等の信頼度が高いようである。門前にある警備員詰め所は老朽化しており、天候によっては室内での警備も余儀なくされることを考慮すると、夏は特に扇風機等の備え付けもなく、高齢でもあり現在のボックス（詰め所）では厳しい環境と思われるため、

ボックスの造り替えも考慮に入れ改善するべきと思料する。しかし、環境が良くなると夜間の警備員が警備を怠り寝てしまう事が懸念されるため、その際は警備会社に対し、抜き打ち巡回実施を義務付ける等、厳しく指導することとする。

- ③ 玄関のテンキー式錠前は、扉横のガラスを割れば簡単に手を入れて開錠できるため、扉直近のガラス部分に内側から板を打ち付け、錠前に手が届かないようにする。
- ④ 全ての寝室の扉の内側に、面付けの内鍵を出来れば2箇所取り付け、トイレ・シャワー室のガラス窓に外から覗き見できないような厚地の防水カーテンを取り付ける。また、1階の女性用の寝室を男性用とし、2階の寝室は全て女性用とすることが望ましい。
- ⑤ 1階のリビングのテラス出入口とキッチンの裏口、2階の女性用寝室のベランダ出入口、図書室左右2箇所の非常口、計5箇所の外部出入口に網戸付の鉄格子扉を取り付ける。

玄関も含めたこれらの扉の鍵は、火災等の有事の際戸惑うことなく逃げられるように、窓から遠い外から見えない位置にキーボックスを設けるか、フックを取り付けて直ぐ取り出せるようにしておく。

- ⑥ 女性犯罪局トップの内務省次官によると、「午後9時以降の女性の単独、或いは少人数での外出は非常に危険であり、誤解を与える。」とのことであるため、連絡所周囲での嫌がらせやセクハラ被害防止の観点からも、夜間の不要不急の外出は自粛するべきである。

【隊員連絡所等の写真】



連絡所近くの市場
安価であり隊員等が良く立ち寄る。



通称ドミ裏マーケット
ローカル食を食べられる食堂もある。



商店街

連絡所から徒歩約 10 分の距離



連絡所前の通り



連絡所と正面通用門

警備ボックスが老朽化しており改善が必要



通用門裏側

南京錠と両面シリンダー錠で施錠可能



連絡所正面の塀

上部に忍び返しの鉄柵付き



玄関側の通路



左側面の塀

赤丸内の隣家の階段から敷地内侵入可能



赤丸内裏側の嵩上げの塀

奥から順に使用人部屋、トイレ、シャワー室



連絡所の裏通り

塀が嵩上げされているため裏からの侵入は困難



玄関は2重扉

網戸付き板格子扉と1枚の板扉



玄関ホール

右奥女性用寝室、正面右キッチン左側リビング



女性用寝室

窓には鉄格子を取り付けている。



寝室扉

両面シリンダー錠と上部に差し込み錠



女性用バス・トイレ室

高窓にも鉄格子を取り付けている。



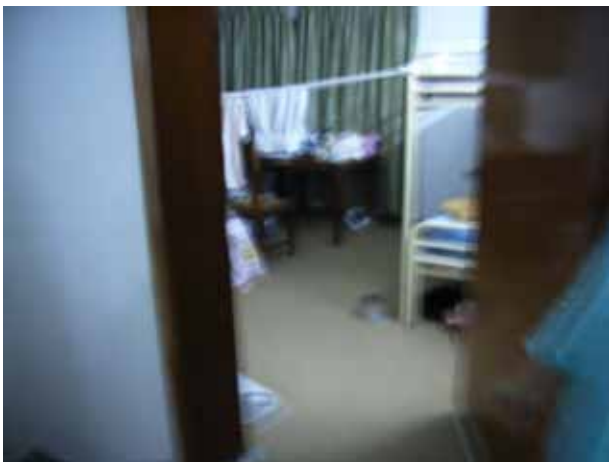
キッチンの裏口と窓

窓には鉄格子を取り付けているが裏口には鉄格子扉はなし



リビング

窓には鉄格子を取り付けている
外部出入口には鉄格子の取り付けはない。



ゲストルーム

現在短期隊員入居



ゲストルームバス・トイレ室

窓等には鉄格子を取り付けている。



踊り場の窓

内側に鉄格子を取り付けている。



図書室と女性用寝室入口



女性用寝室扉内側

両面シリンダー錠と上部に差込錠を取り付けている。



寝室内

窓には鉄格子を取り付けている。



バス・トイレ室の窓

外側に鉄格子を取り付けているが、カーテンがレールから外れており、隙間からの覗き見が懸念される。



女性用寝室ベランダ側出入口

ベランダには隣家側から警備員の間を窺い侵入が可能なことから、網戸付きの鉄格子扉を取り付ける。



男性用寝室



寝室の窓



男性用バス・トイレ室

窓に鉄格子を取り付けているが、カーテンの
取り付けはない。



図書室内

全ての窓には鉄格子を取り付けている。



非常口 1

両扉の外側に、網戸付の鉄格子扉を設置する。



非常口 2

鉄格子扉も含めた鍵は扉近くに備え置く。

CRIME PROFILE

01.01.07 to 15.10.07.

<u>OFFENCE</u>	<u>2007</u>	<u>2006</u>	<u>Diff:</u>	<u>%</u>
Total Reported Crime	56860	50027	+6833	+14%
Crime Against Person	4214	4304	-90	-2%
Crime Against Property	13665	11514	+2151	+19%
Local & Special Laws	21317	18226	+3091	+17%
Misc:	17664	15983	+1681	+11%

HEINOUS CRIME

01.01.07 to 15.10.07.

Sr: No.	Offence	Year	Reported	Diff:	Traced	%
1	Murder	2007	398	-33	353	89%
		2006	431		387	90%
2	Blind Murder	2007	28	-6	12	43%
		2006	34		11	32%
3	Dacoity/robbery cum murder	2007	23	-7	11	48%
		2006	30		8	27%
4	Abduction for ransom	2007	44	+21	25	57%
		2006	23		12	52%
5	Dacoity	2007	116	+45	64	55%
		2006	71		34	48%
6	Robbery	2007	1050	+446	383	36%
		2006	604		178	29%
7	Street Crime	2007	1663	+1008	742	45%
		2006	655		185	28%
8	Car Snatching	2007	111	-5	43	39%
		2006	116		25	22%
9	M-cycle Snatching	2007	281	+136	106	38%
		2006	145		37	26%
10	Car Theft	2007	1052	+29	220	21%
		2006	1029		115	11%
11	M-cycle Theft	2007	2206	+499	465	21%
		2006	1707		190	11%

POLICE PERFORMANCE

01.01.07 to 15.10.07.

DETECTION OF HEINOUS CASES.

Reported in 2007 & 2006.

Heinous cases worked out = 3606
 Pertaining to 2007 = 2424
 Pertaining to 2006 = 1182

Sr: No.	Offence	Year		
		2007	2006	Total
1.	Murder	365	398	763
2.	Abduction for ransom	25	12	37
3.	Dac: Rob: cum-murder	11	08	19
4.	Dacoity	64	34	98
5.	Robbery	383	178	561
6.	Street Crime	742	185	927
7.	Car Snatching	43	25	68
8.	M-Cycle Snatching	106	37	143
9.	Car Theft	220	115	335
10.	M-Cycle Theft	465	190	655

GANG BUSTED.

Year	Total Gangs	Gangsters arrested	Cases Traced	Property Recovered
2007	727	2397	6342	170 Million

ARREST OF P.Os.

	Total	Arrested			Rem:
		A	B	Total	
P.Os Arrested	21141	1667	9745	11412	9729
C.As Arrested	12208	111	8825	8936	3272

ILLICIT WEAPONS SEIZED 2007 2006
 9775 7875

Cases Reg:

Year	Kalashnikovs	Rifles	Guns	Hand Guns	Hand Grenade
2007	34	520	561	8243	4
2006	21	460	983	7355	7

NARCOTICS SEIZED 2007 2006

Cases Reg: 9213 8391

Year	Heroin	Chars	Liquor
2007	27.00 kg	1750 kg	87580 Bottle
2006	65.00 kg	1925 kg	26563 Bottle

TOTAL BOOTY RECOVERED.

Year	Stolen	Recovered
2007	1857 million	650 million
2006	1443 million	456 million

REDRESSAL OF PUBLIC GRIEVANCES.

Petitions Received	Total Finalized	Cases Reg:	Ended in Compromise	Found False	Misc:	Pending
3832	2789	375	245	315	1854	1043

POLICE ENCOUNTER (up-to-date)

Year	No. of encounters	No. of criminals		No. of Police Officer	
		Killed	Injured	Martyred	Injured
2007	39	43	8	0	4
2006	18	13	0	1	3

内務省 国家警察 女性犯罪局は 国内における女性関係のデータを

The Gender Crime Cell, National Police Bureau, Ministry of Interior, Islamabad 収集している
collects and maintains data on gender-based violence in the country. Data collected 以下のデータは
during year 2006 on domestic violence, honour killing and trafficking of women as 2006年に同局
reported by Gender Crime Cell is given below:-

Violence Against Women

Area	Domestic Violence	Honor Killing	Acid throwing/ Stove burning	Vanni	Sexual Violence	Harassment at Workplace	Other Violence	Total
Punjab パンジャブ	1557 家庭内暴力	154 名誉殺人	15 酸の投擲	0 バニ	1635 性的暴行	0 職場での セクハラ	354 その他	3715
Sindh シンド	284	46	6	1	168	96	21	622
NWFP 北西辺境	224	21	3	1	70	108	55	482
Balochistan バロチスタン	45	21	1	0	31	29	23	150
Islamabad イスマハブ	14	0	0	0	8	0	6	28
AJK アジク アジク カシミール	29	0	0	0	20	0	28	77
Total	2153	242	25	2	1932	233	487	5074

「バニ」
「親族が承けた罪を補償するなどの補償」
目的で嫁をとつたこと。嫁が先でたこと...
「抱き寄せたり、殺害されることである」

「北西辺境」
「バニ」
「アジク」
「カシミール」

* Vanni: Giving girl/women in marriage to settle disputes/ feuds
* Source: Gender Crime Cell, Ministry of Interior.

情報元: 内務省女性犯罪局

家や家族の名誉を守るという目的で 夫父兄弟などの男性が
家族である妻や姉妹などを殺すこと 女性のライフライン
交渉や不貞により家の名誉が汚されると考え、男性が名誉
回復のために殺害する。

According to the information provided by Gender Crime Cell, National Police Bureau, Ministry of Interior, the number of women who have been the victim of stove burning during the year 2004,2005 and 2006 is as under:-

Province Year	2004	2005	2006	Total
Punjab	05	03	N.A	08
Sindh	07	08	07	22
Balochistan	02	01	00	3
NWFP	02	03	03	08
Total	16	15	10	41

ハラスメント 暴行
脅迫 監禁

女性犯罪の報告された女性犯罪件数

CASES OF VIOLENCE AGAINST WOMEN REPORTED TO GCC (Gender Crime Cells)											
1st April 2006 - 30th September 2007											
Month	Domestic Violence 家庭内暴力	Vandali Swara バニ 305	Burn 焼身	Murder 殺人	Rape VPO	Gang Rape 集団VPO	Karo-Kari Honoring Killing 名誉殺人	Kidnapping 誘拐	Against Police / Non-arrest / non- registration of FIR 未検挙、未事件	Others *	Total Cases
April	2				2	2		1	1	2	10
May	4	3		2	1	5	13	3	7	4	42
June	4	12		6	8	5	2	2	5	6	50
July	1	10	1	1	4	3			7	4	30
Aug	3	2		6	6	2	6	7	6	2	40
Sept	2			6	7	6	2	4	5	8	40
Oct	5			1	4	4	3	4	4	5	30
Nov	7		3	2	11	3		6	1	2	35
Dec	2	1		2	4	3		1	2	7	22
Jan-07	2			6	5	7	2	5	3	7	37
Feb-07	9		1	1	7	7	2	5	2	10	44
Mar-07	7	1		1	5	11	4	1	4	6	40
Apr-07	6	1	1	1	9	5	2	2	3	7	37
May-07	2	2		1	9	5	3	9	7	4	42
Jun-07	4			2	3	4	7	5	4	12	41
Jul-07	5			3	3	2	2	3	5	7	30
Aug-07	1			1	4	3	1	3	2	9	33
Sep-07	5			2	6	4		2	3	5	27

TOTAL	81	32	6	42	93	81	49	63	71	107	630
* Harassment, violence, illegal confinement, Threats to life											